



# 初回セットアップウィザード

この章は、次の項で構成されています。

- [初回セットアップウィザードについて \(1 ページ\)](#)

## 初回セットアップウィザードについて

初回セットアップウィザードを使用して、Cisco APIC の初回セットアップを実行します。

- GUI を使用して Cisco APIC に初めてログインすると、初回セットアップウィザードが自動的に表示されます。



- Cisco APIC リリース 4.2(3) 以降では、GUI ウィンドウの右上隅にある [システムツール (System Tools) ] アイコン (Cisco APIC) をクリックし、[APIC\_release\_number の新機能 (What's New in APIC\_release\_number) ] を選択すると、初期設定ウィザードにアクセスできます。

[APIC へようこそ (Welcome to APIC) ] ウィンドウが表示され、この特定のリリースに含まれる新機能に関する情報が示されます。

初回セットアップウィザードにアクセスするには、ウィンドウの右下にある [初回セットアップの開始 (Begin First Time Setup) ] または [初回セットアップの確認 (Review First Time Setup) ] をクリックします。[基本の設定 (Let's Configure the Basics) ] ウィンドウが表示され、Cisco APIC の設定に使用できる個々のページへのリンクが示されます。

少なくとも1つのBGPルートリフレクタを含む初期設定が完了すると、[サマ리를続行 (Proceed to Summary) ] ボタンが有効になります。設定のサマリータイルを表示するには、このボタンをクリックします。追加のタイルが [以下がお望みですか (You Might want to ...) ] 見出しの下に表示されます。これらの追加トピックはオプションですが、推奨されます。

次の項では、このウィンドウから使用できる各初期設定ページの詳細について説明します。

## [Fabric Membership (ファブリックメンバーシップ)]

[ファブリックメンバーシップ (Fabric Membership)] ウィンドウを使用して、ACIファブリックによって検出されたリーフおよびスパインスイッチを登録します。ボックスに記載されているシリアル番号を使用して、リーフスイッチとスパインスイッチをファブリックに手動で追加することもできます。




- (注) 少なくとも2つのリーフスイッチと2つのスパインスイッチを登録することを推奨します。初回セットアップウィザードを進めるには、少なくとも1つのリーフスイッチと1つのスパインスイッチを登録する必要があります。

[ファブリックメンバーシップ (Fabric Membership)] ウィンドウには、次の2つのセクションがあります。

- **検出済み**：このセクションでは、新しく検出されたが未登録のスイッチについて説明します。これらのノードのノードIDは0で、IPアドレスはありません。
- **登録済み**：このセクションでは、ACIファブリックに登録されているすべてのスイッチに関する情報を提供します。

次のいずれかの方法でスイッチを登録できます。

- スイッチが **[検出済み (Discovered)]** セクションに表示されている場合は、そのスイッチの横にある **[登録 (Register)]** ボタンをクリックして、**[ファブリックノードメンバーの作成 (Create Fabric Node Member)]** ウィンドウを開きます。この場合、**[ポッドID (Pod ID)]** フィールドと **[シリアル番号 (Serial Number)]** フィールドは **[ファブリックノードメンバーの作成 (Create Fabric Node Member)]** ウィンドウに自動的に入力されます。
- スイッチが **[検出済み (Discovered)]** セクションに表示されない場合は、**[アクション (Action)]** アイコン (  ) をクリックし、ドロップダウンリストから **[ファブリックノードメンバーの作成 (Create Fabric Node Member)]** を選択します。

[ファブリックノードメンバーの作成 (Create Fabric Node Member)] ウィンドウで、次の情報を入力します。

フィールド	設定
ポッドID	ノードが存在するポッドを特定します。
シリアル番号 (Serial Number)	必須：新しいスイッチのシリアル番号を入力します。

フィールド	設定
ノード ID (Node ID)	<p>必須：100 以上の数字を入力します。最初の 100 ID は、APIC アプライアンス ノードのために予約されています。</p> <p>(注) リーフ ノードとスパイン ノードには異なる数字をつけることをお勧めします。たとえば、100 の範囲の番号リーフ (例：101、102) と 200 の範囲の番号スパイン (例：201、202)。</p> <p>(注) ノード ID が割り当てられた後は、更新できません。ノードが [登録済みノード (Registered Nodes)] タブ表に追加された後、表の行を右クリックし、[ノードとラック名の編集 (Edit Node and Rack Name)] を選択してノードを更新できます。</p>
Switch Name	leaf1 または spine3 などのノード名。
ノードタイプ (Node Type)	<p>割り当てられたノードの役割を選択します。次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• leaf           <p>必要に応じて、次のボックスのいずれかをオンにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• リモート</li> <li>• 仮想</li> <li>• 階層 2 リーフ</li> </ul> </li> <li>• spine           <p>必要に応じて、次のボックスをオンにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 仮想</li> </ul> </li> <li>• unknown</li> </ul>

[ファブリック ノード メンバーの作成 (Create Fabric Node Member)] ウィンドウで情報を入力したら、[送信 (Submit)] をクリックし、[ファブリック メンバーシップ (Fabric Membership)] で [続行 (Continue)] をクリックして、初回セットアップウィザードの次のウィンドウに進みます。

## 管理

[アウトオブバンド管理 (Out of Band Management)] ウィンドウを使用して、アウトオブバンド (OOB) ネットワークに接続するリーフ スイッチ、スパイン スイッチ、および APIC ノードの管理インターフェイス IP アドレスを設定します。複数のノードを選択して、IP アドレスの割り当てを開始します。



- (注) 初回セットアップウィザードは、アウトオブバンド管理用にまだ設定されていないノードの設定に役立ちます。

次のフィールドにゲートウェイのアドレスを入力すると、検出されたノードごとに IP アドレスが自動的に提案されます。

- **IPv4ゲートウェイ**：アウトオブバンド管理を使用した外部ネットワークへの通信用のIPv4デフォルトゲートウェイアドレス。
- **IPv6ゲートウェイ**：アウトオブバンド管理を使用した外部ネットワークへの通信用のIPv6デフォルトゲートウェイアドレス。

[属性によるフィルタ (Filter by attributes)] 領域では、検出されたノードを属性でフィルタ処理できます。アウトオブバンド管理用に設定するために選択したノードを変更する場合は、[編集 (Edit)] をクリックします。

[保存する (Save)] をクリックし、初期セットアップウィザードの次のウィンドウに進みます。

## vPC ペア

[セットアップ - vPC ペア (Setup - vPC Pairs)] ウィンドウは、ファブリック ポリシー ノード エンドポイントを使用してグループのメンバーノードを明示的に構成するために使用します。

[属性によるフィルタ (Filter by attributes)] 領域で、属性によって vPC ペアをフィルタリングできます。vPC ペアを設定するために選択した vPC ペアを変更する場合は、[編集 (Edit)] をクリックします。

vPC ペア中央ペインで、[アクション (Actions)] ドロップダウンリストを展開し、[vPC リーフスイッチ ペアの作成 (Create vPC Leaf Switch Pair)]、[vPC リーフスイッチ ペアの削除 (Delete vPC Leaf Switch Pair)]、[すべてダウンロード (Download All)]、または [オブジェクトストア ブラウザで開く (Open in Object Store Browser)] を選択します。

[保存する (Save)] をクリックし、初期セットアップウィザードの次のウィンドウに進みます。

## BGP

**BGP** ウィンドウを使用して、ACI ファブリックのルート リフレクタを設定し、マルチプロトコル BGP (MP-BGP) を使用してファブリック内に外部ルートを配布します。ACI ファブリックのルート リフレクタを有効にすると、外部ネットワークへの接続を設定できます。



- (注) ルートリフレクタとして設定するスパインスイッチを選択します。初回セットアップウィザードを進めるには、少なくとも1つのルートリフレクタを設定する必要があります。このウィンドウのテーブルにスパインスイッチが表示されない場合は、スイッチが正しいタイプで登録されているか、APICによって検出されていることを確認します。

[BGP] ウィンドウで、ルートリフレクタとして使用するスパインスイッチの横にあるボックスをオンにし、[自律システム番号 (Autonomous System Number)] フィールドにこのスパインスイッチのASNを入力します。[保存して続行 (Save and Continue)] をクリックし、初期セットアップウィザードの次のウィンドウに進みます。

## DNS

DNS ウィンドウを使用して、リーフスイッチ、スパインスイッチ、および APIC ノードが DNS 名を照会できるように DNS サーバと検索ドメインを設定します。OOB 接続は DNS 通信に使用されます。



- (注) 初回セットアップウィザードは、デフォルトの DNS ポリシーで DNS サーバと DNS ドメインを設定します。

DNS サーバを設定するには、[DNS サーバ (DNS Servers)] 領域で [+] をクリックし、次の情報を入力します。

- **アドレス** : プロバイダアドレスを入力します。
- **希望** : 優先するプロバイダとしてこのアドレスが必要な場合は、チェックボックスをオンにします。
- **ステータス** : 設定要求のステータスを提供します。

[更新 (Update)] をクリックし、必要に応じてこのプロセスを繰り返して追加の DNS サーバを設定します。

検索ドメインを設定するには、[ドメインの検索 (Search Domains)] 領域で [+] をクリックし、次の情報を入力します。

- **名前** : ドメイン名 (cisco.com) を入力します。
- **デフォルト** : チェックボックスをオンにして、このドメインをデフォルトドメインにします。デフォルトとして指定できるドメイン名は1つだけです。
- **ステータス** : 設定要求のステータスを提供します。

[更新 (Update)] をクリックし、必要に応じてこのプロセスを繰り返して追加の検索ドメインを設定します。

[DNS サーバ (DNS Servers)] テーブルまたは [ドメインの検索 (Search Domains)] テーブルからエントリを削除するには、削除するエントリを選択し、そのテーブルのゴミ箱アイコンをクリックします。

[保存して続行 (Save and Continue)] をクリックし、初期セットアップウィザードの次のウィンドウに進みます。

## NTP

**NTP** ウィンドウを使用してタイムゾーンを設定し、リーフ スイッチ、スパイン スイッチ、および APIC ノードを有効な時刻源に同期するように NTP サーバを割り当てます。OOB 接続は NTP 通信に使用されます。



(注) 初期セットアップウィザードは、**デフォルト**の NTP ポリシーでサーバを設定します。

[表示形式 (Display Format)] 領域で、[local] をクリックして日付と時刻をローカルタイムゾーン形式で表示するか、[utc] をクリックして日付と時刻を UTC タイムゾーン形式で表示します。デフォルトは [local] です。

上記で [local] を選択した場合は、[タイムゾーン (Time Zone)] 領域で、ドロップダウン矢印をクリックしてドメインのタイムゾーンを選択します。ドロップダウンメニュー領域に入力して、ドロップダウンオプションをフィルタリングすることもできます。デフォルトは [協定世界時 (Coordinated Universal Time)] です。

NTP サーバを設定するには、[NTP サーバ (NTP Servers)] 領域で [+] をクリックし、次の情報を入力します。

- **ホスト名/IPAddress** : NTP サーバのホスト名と IP アドレスを入力します。
- **希望** : 複数のプロバイダーを作成する場合は、最も信頼できる NTP 時刻源の [希望 (Preferred)] チェックボックスをオンにします。
- **ステータス** : 設定要求のステータスを提供します。

[更新 (Update)] をクリックし、必要に応じてこのプロセスを繰り返して追加の NTP サーバを設定します。

NTP サーバテーブルからエントリを削除するには、削除するエントリを選択し、そのテーブルのゴミ箱アイコンをクリックします。

[保存して続行 (Save and Continue)] をクリックし、初期セットアップウィザードの次のウィンドウに進みます。

## プロキシ

[プロキシ (Proxy)] ウィンドウを使用して、HTTP または HTTPS プロキシポリシーを構成します。設定すると、一部の Cisco Cloud Application Policy Infrastructure Controller (APIC) 機能、

主に Cisco Intersight 接続などのインターネットアクセスを必要とする機能が、HTTP または HTTPS プロキシを介してトラフィックを送信します。詳細については、Cisco APIC システム管理設定ガイドを参照してください。

## グローバル設定

[**グローバル設定 (Global Configurations)**] ウィンドウを使用して、特定のエリアを設定します。これは、Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) ファブリックの初回セットアップ中のベストプラクティスとして推奨されます。**[OK]** をクリックします。次の領域を設定する準備ができたなら、

- [サブネットチェック \(7 ページ\)](#)
- [ドメイン検証 \(8 ページ\)](#)
- [再配布されたルートの中間システムから中間システム \(8 ページ\)](#)
- [IP エージングの管理状態 \(8 ページ\)](#)
- [不正なエンドポイントの制御 \(8 ページ\)](#)
- [COOP グループポリシー \(9 ページ\)](#)



(注) このウィンドウの一部の設定は、[Fabric Wide Setting Policy] ページ ([System] [System Settings] [Fabric-Wide Settings]) で設定できる [Subnet Check] および [Domain Validation] の設定など、初回セットアップ後に設定できます。>>ただし、初回セットアップ後にこれらの設定を行うと、他の既存の設定で問題が発生する可能性があります。たとえば、[ファブリック全体の設定ポリシー (Fabric Wide Setting Policy)] ページで [サブネットチェックの適用 (Enforce Subnet Check)] および [ドメイン検証の適用 (Enforce Domain Validation)] の設定を有効にすると、インターフェイスまたは EPG にスタティックに割り当てられたポートに適切なポリシーチェーンがない場合、設定済みの L3Out 接続が切断される可能性があります。

### サブネットチェック

この機能では、ある VRF で設定されたサブネットの外、つまり他のすべての VRF では、IP アドレス学習が無効になります。

この機能は、Cisco ACI () が IP アドレスをデータプレーンからエンドポイントとして学習した場合、VRF インスタンス レベルでサブネットのチェックを適用します。このオプションをオンにすると、ファブリックは、ブリッジドメインで構成されたもの以外のサブネットからの IP アドレスを学習しなくなります。この機能は、このようなシナリオで、ファブリックがエンドポイント情報を学習しないようにします。

[**適用 (Enforce)**] の横にあるチェックボックスをオンにして、サブネットチェック機能を有効にします。

### ドメイン検証

この機能は、スタティックパスが追加されているが、ドメインが EPG に関連付けられていない場合に検証チェックを実行します。

有効な場合、スタティックパスが EPG に追加されているときに検証チェックが実行され、パスが EPG に関連付けられているドメインの一部であるか判断します。このポリシーの適用範囲は、ファブリック全体です。を設定した後、ポリシーは起動に各リーフスイッチにプッシュされます。

**[適用 (Enforce) ]**の横のチェックボックスをオンにして、ドメイン検証機能を有効にします。これは強く推奨されています。

### 再配布されたルートの中間システムから中間システム

これは、IS-IS にすべてインポートされたルートに使用されている IS-IS メトリックです。このオプションで 64 (最大) 未満のメトリック (63 など) を設定すると、Cisco ACI では新しいスパインでルーティングコンバージェンスが達成されるまで、スイッチは安定したスパインからのルートを優先できます。

**[IS-IS メトリック (IS-IS metric) ]** フィールドに適切な値を入力します。

### IP エージングの管理状態

このポリシーを有効にすると、Cisco ACI では各 IP アドレスを個別に追跡し、未使用のアドレスを効率的にエージングアウトできます。それ以外の場合、未使用の IP アドレスは、ベース MAC アドレスが期限切れになるまで学習されたままになります。これはリモートエンドポイントには影響しません。

有効な場合、IP エージングポリシーは、エンドポイント上の未使用の IP アドレスをエージングします。この状況では、IP エージングポリシーは、エンドポイントの IP アドレスを追跡する ARP 要求 (IPv4) とネイバー要請 (IPv6) を送信します。応答が指定されていない場合、ポリシーは未使用の IPs アドレスをエージングします。

このフィールドのオプションは次のとおりです。

- **無効** : デフォルト設定。Cisco APICでは、IP エージングポリシーを無視します。
- **有効** : Cisco APIC は IP エージングポリシーを監視します。

この機能を有効にすることを強くお勧めします。

### 不正なエンドポイントの制御

不正なエンドポイントは、リーフスイッチを頻繁に攻撃し、異なるリーフスイッチポートにパケットを繰り返し挿入し、802.1Q タグを変更し (エンドポイントの移動をエミュレート)、その結果、IP アドレスと MAC アドレスが異なる EPG とポートで迅速に学習されます。誤設定により頻繁に IP アドレスと MAC アドレスが変更 (移動する) されることとなります。

不正エンドポイント制御機能は、この脆弱性に対処します。このポリシーを有効にすると、Cisco ACI で不正なエンドポイントを検出して削除できます。



このフィールドのオプションは次のとおりです。

- **無効**：デフォルト設定。Cisco APIC は、不正なエンドポイント制御ポリシーを無視します。
- **有効**：Cisco APIC は、不正エンドポイント制御ポリシーを監視します。

この機能を有効にすることを強くお勧めします。

[不正 EP 検出間隔 (Rogue EP Detection Interval) ]、[不正 EP 検出倍数係数 (Rogue EP Detection Multiplication Factor) ]、[保持間隔 (Hold Interval) ]などの不正エンドポイント制御の追加設定は、[エンドポイント制御 (Endpoint Controls) ]パネルから使用できます。[エンドポイント制御 (Endpoint Controls) ]パネルにアクセスするには、メニューバーで[システム (System) ]> [システム設定 (System Settings) ]> [エンドポイント制御 (Endpoint Controls) ]をクリックし、[不正 EP 制御 (Rogue EP Control) ]タブをクリックします。

次に、[エンドポイント制御 (Endpoint Controls) ]ウィンドウの[不正 EP 制御 (Rogue EP Control) ]タブのフィールドの有効なデフォルト設定を示します。

- **不正 EP 検出間隔**：有効な値は 0 – 65535 秒です。デフォルト値は 60 です。
- **不正 EP 検出倍数係数**：有効な値は 2 – 65535 です。デフォルト値は 4 です。
- **保持時間**：5.2(1) および 5.2(2) リリースでは、有効な値は 1800 – 3600 秒です。5.2(3) リリース以降、有効な値は 300 – 3600 秒です。デフォルト値は 1800 です。

### COOP グループポリシー

マッピング情報 (ロケーションおよび ID) をスパインプロキシに伝達するために、Council of Oracles Protocol (COOP) を使用します。リーフスイッチは、Zero Message Queue (ZMQ) を使用して、エンドポイントアドレス情報をスパインスイッチ「Oracle」に転送します。スパインノードで実行している COOP によって、すべてのスパインノードがエンドポイントの一貫したコピーと、マッピングデータベースの場所情報を保持していることを確認します。

COOP プロトコルは、次の 2 つの ZMQ 認証モードをサポートします。

- **互換性タイプ**：デフォルト設定。COOP は、メッセージ転送のために MD5 認証および非認証 ZMQ 接続の両方を受け入れます。



(注) Cisco APIC は、COOP の MD5 パスワードとして使用されるトークンを管理します。このトークンは、Cisco APIC 1 時間ごとに自動的にローテーションされます。このトークンは表示できません。

- **厳密タイプ**：COOP は MD5 認証 ZMQ 接続のみを許可します。

COOP グループポリシーの[厳密タイプ (Strict Type) ]設定を強く推奨します。



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。